

「知らない言語」で書かれた文学についていかに語るか



問い合わせ先：京都大学人間・環境学
研究科 吉田恭子
yoshida.kyoko.2r@kyoto-u.ac.jp

登壇者：関口裕昭（ドイツ語文学・翻訳家）◎川瀬慈（映像人類学者・詩人）◎阿部大樹（精神科医）◎マリア・コレア（日本文学・女性学・翻訳家）◎内沼晋太郎（ブックコーディネーター）◎工藤順（ロシア文学・翻訳労働者）◎阪本佳郎（ルーマニア亡命文学）

主催：知らない言語グループ
後援：京都大学学際融合教育研究推進センター◎京都大学総合研究推進本部

「知らない言語」で書かれた文学をどのように知り、読み、語るか。「大きな言語」を通じては触れることがむずかしい「他者」の姿をどのように想像し、その経験を分かちもつことができるか。そこにおいて「翻訳」が果たす役割とはなにか——。ワークショップとラウンドテーブルの二部構成で、文学が拓くこれからの地平を探ります。

2025年3月8日（土） 京都大学 楽友会館 2階会議・講演室

10:30~14:30
多言語翻訳ワークショップ
（非公開）

14:30
開場受付開始

15:00~16:30
ラウンドテーブル「知らない言語で書かれた文学についていかに語るか」